

TILAA（ティラア）サウナ ヒーター取付け説明書

※サウナルーム Ver1 タイプの取付説明書

SAB30/SAB45/SAB60 シリーズ（単相 200V）

更新：2026.06



この設置及び使用に関する説明書は、サウナの所有者、及びヒーターの電気工事を担当する電気事業者を対象としています。設置完了後、設置担当者はこの説明書をサウナの所有者または運営担当者にお渡しください。ヒーターを使用する前に、この使用説明書をよく読んでください。

本ヒーターは、サウナルームを入浴温度まで暖めるために設計されています。それ以外の目的には使用しないでください。

- ・居住者がサウナで使用するヒーターおよび制御機器の保証期間は納品後 1 年間です。
- ・設置、使用、メンテナンスの指示に従わなかったことに起因する故障は保証の対象外となります。
- ・推奨していないサウナストーンを使用したことによる不具合は、保証の対象外となります。
- ・このサウナヒーターは住宅向けの使用を目的としています。公衆サウナ施設・ホテルなどの使用は不可です。
又、医療用サウナヒーターではありません。

●サウナ ヒーター「設置に関するご注意」

- ・取付け作業は、専門の業者が設置してください（火災・感電の恐れがあります。）
- ・アース工事を必ず行ってください（D種設置工事）
- ・主幹には漏電ブレーカーを設置してください。

サウナヒーター用の電源はコンセントを使用するのではなく、単独のブレーカーを分電盤内に増設し、直接繋げる場合が一般的です。漏電を検知するブレーカーを設置してください。

※TL1000、1200タイプは3.0kWのヒーターなので20A、1500タイプは4.5kWのヒーターなので25～30Aの漏電ブレーカーを設置してください。

※また1500タイプの場合は、容量が大きい為、他電気の使用量にもよりますが、契約アンペアは50A以上を推奨しています。

- ・電圧はサウナルームに適したヒーターの種類に適しているかをご確認ください。
- ・電圧はヒーターの定格電圧に適合しているかをご確認ください。このサウナヒーターは単相200V仕様です。
- ・ヒーターの設置位置は、表1に示す最低距離を確保してください。
- ・ヒーターは床や壁の凹み部分では設置不可です。必ず平らな場所に設置してください。
- ・サウナルームは乾燥した場所で換気できる場所に設置してください。
- ・配線ケーブルは自由に動かせるように配置し、躓かないようにしてください。
- ・セメントタイル、ボード等をヒーター裏の壁シートとして使用しないでください。
このような材料は壁の温度を危険なほど上昇させます。
- ・サウナ室に複数のヒーターは設置しないでください。
- ・サウナヒーターの稼働中は非常に熱くなります。ヒーターとの接触の危険を避けるために、ヒーターフェンスを設置することをお勧めします。※サウナルームに木製のヒーターフェンスが同梱されています。
- ・安全性と信頼性を確保するために、ヒーターの設置には電源が必要です。電気接続を誤ると火災や感電の原因となることがあります。配線図を参照してください。
- ・サウナルームの照明（シェードランプ/LEDテープライト）は100Vのコンセントが既に配線されていますので、100Vのコンセントボックスを近くに設置してください。

●サウナ ヒーター「使用に関するご注意」

- ・可燃性（引火性にスプレー缶なども）のものや腐食性のあるものはサウナヒーターに近づけないでください。
- ・専門の業者以外の方が、ヒーター本体の分解を行わないようにしてください。
- ・電源コードを束ねたり、巻き付けたりしたままで使用しないでください。
- ・配線ケーブルが破損した場合は、直ちに使用を中止してください。
- ・サウナヒーターを運転中の場合は無人の状態にしないでください（必ず電源をOFFにしてから離れてください）。
- ・サウナヒーターを乾燥機の代わりに使用しない事、又、グリルの代わりに使用しないでください。

※サウナヒーターは安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子ども含む）が単独で使用してはいけません。又、サウナヒーターで遊ばないように注意してください。

※泥酔状態など、正常な判断ができない状態の方や、操作に不慣れな方は、操作せずにサウナを利用しないでください。
コントローラーは幼児が操作できない場所に取り付けてください。

●サウナ ヒーターの仕様一覧

モデル	出力 kW	サウナルーム		室内 高さ mm	ヒーターからの最小距離			推奨ケーブル サイズ	サウナストーン 重量 kg
		m ³ MIN	MAX		袖壁 mm	天井 mm	床 mm		
SAB30K	3.0	2	4	1,900	50	110	180	3×2.5	12kg
SAB45K	4.5	3	6	1,900	80	110	180	3×6.0	18kg
SAB60K	6.0	5	9	1,900	100	110	180	3×10	18kg

表 1



●サウナーヒーター本体 (PSE)
寸法 : W410 x H515 x D270mm



●AC ボックス (制御盤)
寸法 : W310 x H265 x D85mm



●コントローラー
寸法 : W86 x H86 x D25mm

※サウナーヒーターは、本体、ACボックス（制御盤）、コントロールパネルの3つから成り立っています。

※長期間使用しない場合、ACボックス（制御盤）のメインスイッチ（赤いスイッチ）をオフにしてください。

● サウナ ヒーターの電気工事の際に準備するもの



ドライバー小 (+/-)



精密ドライバー (+/-)
※配線用端子固定



木工用穴あけドリルビット
・12mm (コントローラー配線用)
・6mm (温度センサー配線用)



クリッピングプライヤー



ハンマー
※隠し釘固定用



水平器
※コントローラー設置用など

●サウナ ヒーターの施工キットについて



①端子 x 15 + 絶縁キャップ x 15 ケ
※配線と接続する端 (P-8 参照)



②耐熱性絶縁電線 (4m) x 1 巻
※ヒーター～AC ボックスのアース線 (P-8 参照)



③耐熱パテ x 1 セット
※穴埋め用 (P-11 参照)



④出隅の配線隠し L=1,800mm
※P-11 参照



⑤出隅配線隠し用釘
※P-11 参照



⑥耐熱両面テープ
※P-15 参照



⑦ロウリュウ用水受けプレート
※P-15 参照

●サウナ ヒーターの壁付け固定位置/サウナ用フェンス（安全柵）

- ① サウナヒーターはサウナルームの室内壁（正面向かって左壁）に固定します。
専用の壁付ブラケットが同梱されておりますので、壁付ブラケットを室内壁に固定してください。
- ② 表1の通り、例えば SAB30 の場合、ヒーター本体は袖壁から 50mm、床から 180mm 離す必要がありますので
壁付ブラケットは袖壁部分から 150mm、床から 300mm の場所に付属のビス x 6 箇所固定してください。



※壁付ブラケットの固定



※袖壁から 150mm



※床から 300mm



※取付けビスは「screw for stove frame」を使用します。

- ③ 壁付ブラケットの設置後、サウナーヒーターを引っ掛けるように設置します。
※配線がありますので、配線完了後に、ヒーターを引っ掛けます。
- ④ ヒーターの上部に設置するカバーを取り付けてください。

・ヒーター用のフェンスはサウナルーム（天井/床パネル）に同梱されています。コの字タイプの置き型となっております。

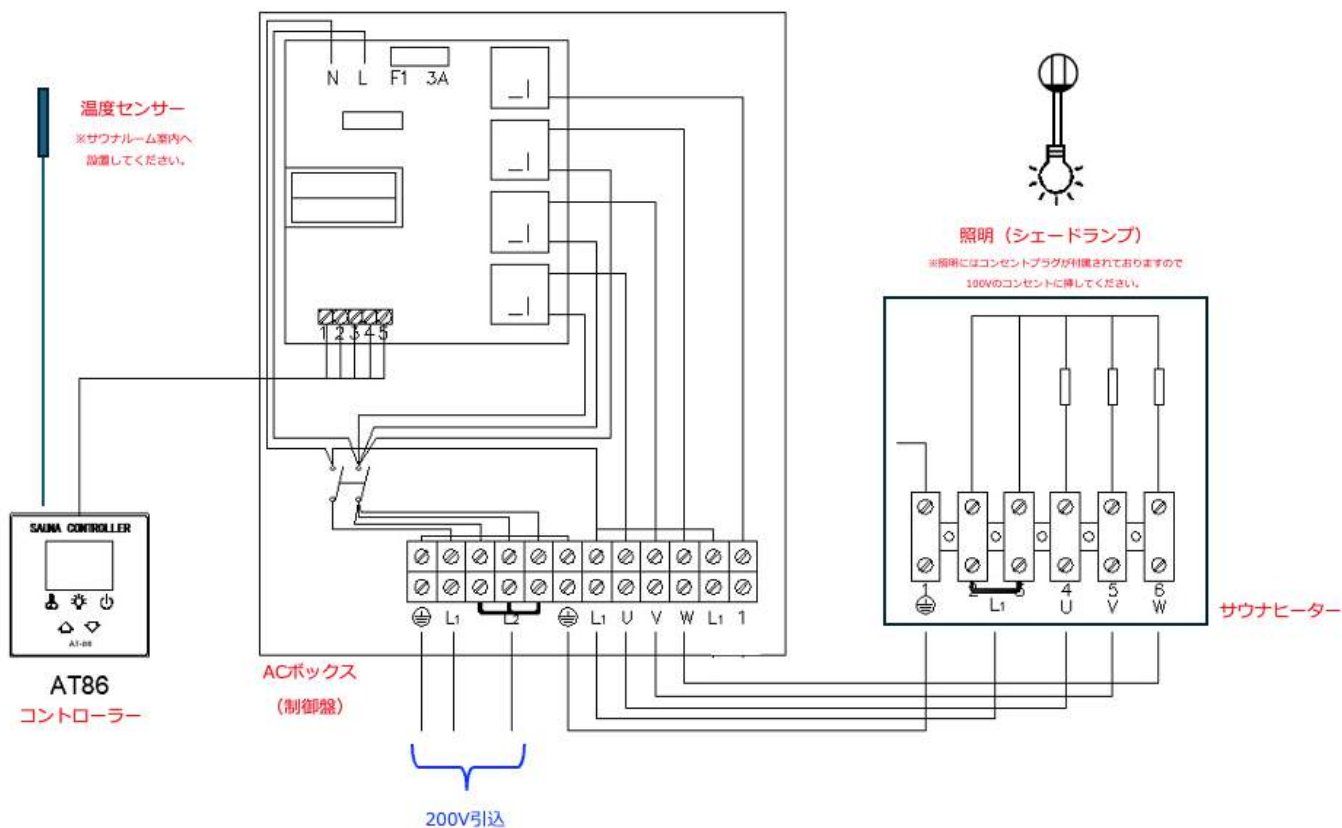


※ビスは「L-shaped Angle iron for stove wood frame」を使用。

※必要に応じて、床に固定するなどの対応（L型の固定金具が同梱されています）をお願いします。

●サウナルーム Ver1 の場合の施工方法 **(※ここからはサウナヒーターVer1 での配線方法となります)**

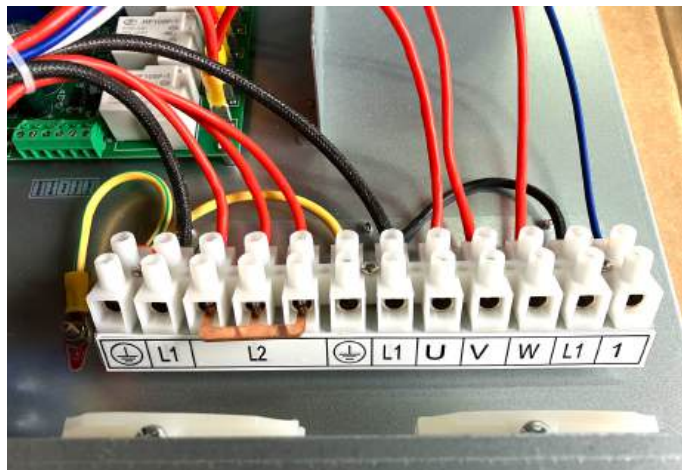
●サウナ ヒーターの配線 (200V) ①



配線図 1

【重要】

ヒーター～ACボックス (制御盤) ～コントローラー (AT86) の電気配線図は「配線図 1」を参照して配線してください。



ACボックス (制御盤) 端子



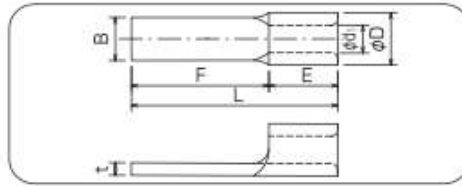
サウナヒーター端子 (底部)

● サウナヒーターの配線 (200V) ②

- 配線に繋ぐ端子は、板型圧着端子 (SPF 型) の 5.5 を推奨しています。

※端子、絶縁被覆は施工キットに含まれております。

■ 板型圧着端子 (SPF型)



RoHSII P.1をご覧ください。

単位:mm

呼び	B	L	F	E	φD	φd	t	電線適合容量(参考)			適合工具	一箱入数	
								単線mm	撚線mm ²	AWG			
1.25	SPF-1SS	1.0	14.0	9.5	4.5	3.4	1.7	0.8	0.57~1.44	0.25~1.65	22-16	ニニ12	1,000 (100×10)
	SPF-1229	2.2	13.5	9.0									
	SPF-12210		15	10.5									
	SPF-1S	2.8	13.5	9.0									
	SPF-1M	3.4	15	10.5									
	SPF-1L	3.1	17	12.5									
2	SPF-2S	2.8	13.5	9.0	4.2	2.3	0.8	1.14~1.82	1.04~2.63	16-14			
	SPF-2L	3.1	17	12.5									
5.5	SPF-5	3.3	21	14.5	6.5	5.6	3.4	0.95	1.82~2.89	2.63~6.64	12-10	214A	



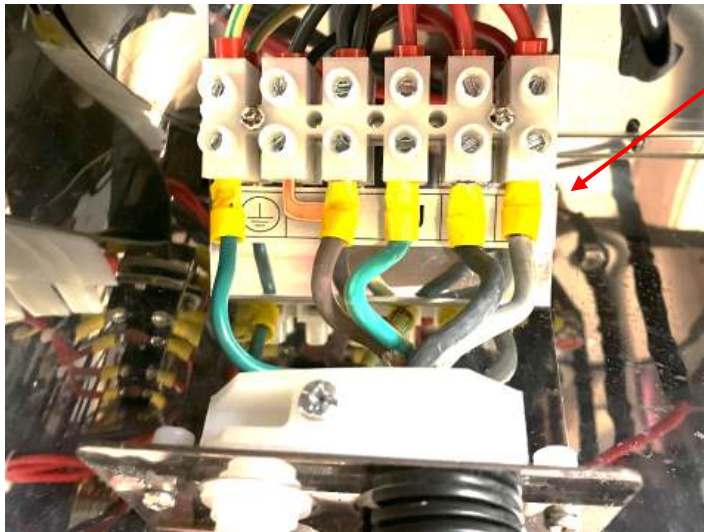
- ① 配線は、サウナヒーター端子から配線していきます。

付属の4芯ケーブル (黒い耐熱ケーブル) を、サウナヒーター (L1+U+V+Wへ) へ接続します。

又、耐熱アース線をサウナヒーターのアース端子へ接続してください。

※アース線 (耐熱ケーブル) x 4m は施工キットに含まれております。

配線を接続する際には、端子と絶縁キャップは必ずお使いください。



※①サウナヒーター (底部) の配線



※②天井の穴あけ

- ② 次に、サウナヒーターからの配線 (4芯ケーブル+アース線) を、室内部分の入隅を通して、天井にφ20mm のホルソーで穴を開けて、コントローラーからの配線 (白い配線+センサー線) と一緒に天井裏へ通します。

※コントローラーの配線につきましては、別途、施工方法は下記記載しています。

●コントローラー（AT86）の配線

- ・コントローラーは専用の白いケーブル（5色線）でACボックスへ配線します。

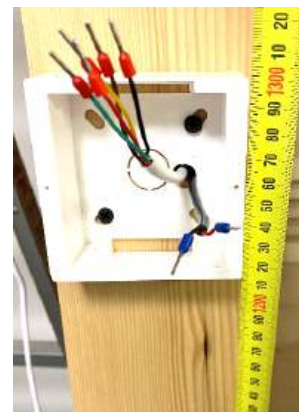
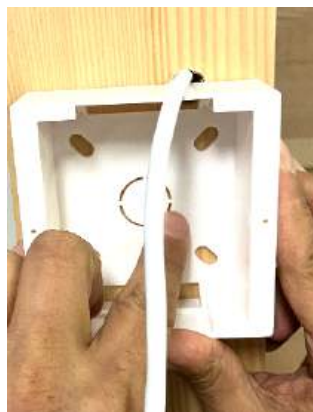


※コントローラー



※コントローラー裏面/配線ケーブル

- ① コントローラーはサウナルームの正面ガラスパネルの枠部分（正面向かって左側）へ設置します。
コントローラー高さは床から 1,200~1,400mm くらいの場所に設置してください。（子どものいたずら防止の為）



- ① 枠のガラス部分から 30mm のところにΦ12mm のホルソーで穴を開けます。
- ② 付属のコントローラー用取付けボックスにもΦ12mm の穴を開けて、ガラスパネルの枠部分にビスで固定します。
- ③ コントローラー配線（白い配線ケーブル）と付属の温度センサー線が穴に通してください。



- ④ コントローラー裏側の各色端子にそれぞれ接続してください。温度センサーは色関係なく接続して問題ありません。
- ⑤ 配線の穴に耐熱パテを使って穴を塞いでください（※オプションの施工セットに用意しています）
- ⑥ コントローラー裏面についている両面テープの剥離シートを剥がして、受けボックスへ貼ってください。



- ① 白いケーブル、温度センサーは室内側の入隅部分を通して、サウナヒーターの配線と同様に天井へもっていきます。
天井の穴に通す線はサウナヒーターからの4芯線（黒い太い線）+アース線、コントローラーからの白い配線+温度センサーの4本の配線です。
- ② 天井にΦ20mm のホルソーで穴を空けて、コントローラーからの配線（白い配線+センサー線）と一緒に天井裏へ通します。
- ③ 付属されている、木製の入隅カバー材を使って、配線を隠してください。

施工キットに含まれる隠し釘（16本程度）を使って入隅部分に入隅カバー材を固定してください。



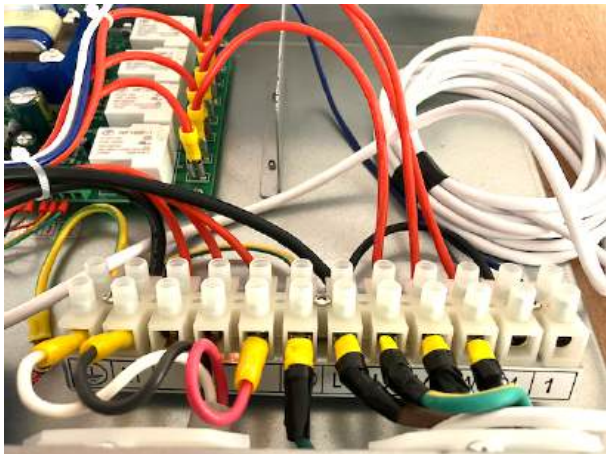
- ② 天井部分の配線が見える部分は、施工キットに含まれる耐熱パテを使って塞いでください。
※熱を逃さないようにするためです。



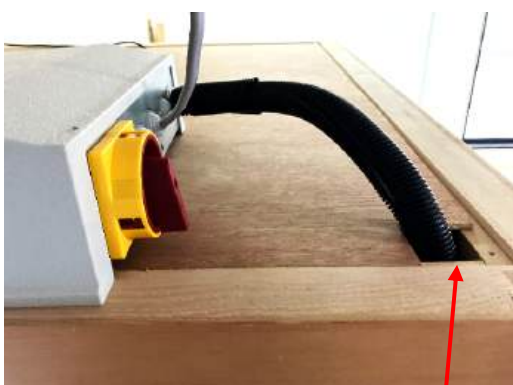
※耐熱パテは「**プラシール S-1**」が施工キットに入っています。二液混合型の為、**水色とオレンジ色の粘土を1：1で混ぜて使用してください。**

●ACボックス（制御盤）の配線（200V）

- ① 200Vの引込み線（2芯線+アース線）は住宅等の分電盤～漏電ブレーカーを通してACボックス（L1+L2+アースへ）へ接続します。※200V引込の配線+アース線は現地で用意お願いします。耐熱仕様の必要はありません。
- ② 天井を通した、サウナヒーターからの配線（4芯線+アース線）、コントローラーの配線（白い配線）をACボックスへ接続します（配線図1参照）。※ACボックスにある端子：L1+1は使用しません。



- ③ ACボックスの配線を接続後、カバーを締めて、サウナルームの天井裏（天井部分の合板の上）設置してください。
※ACボックスは踏み台等で手が届く場所、サウナルームの屋外側へ設置してください。
室内側には絶対に設置しないでください。



天井からの配線の為、合板も欠き込んでください。※写真はチューブを巻いていますが、必須ではありません。

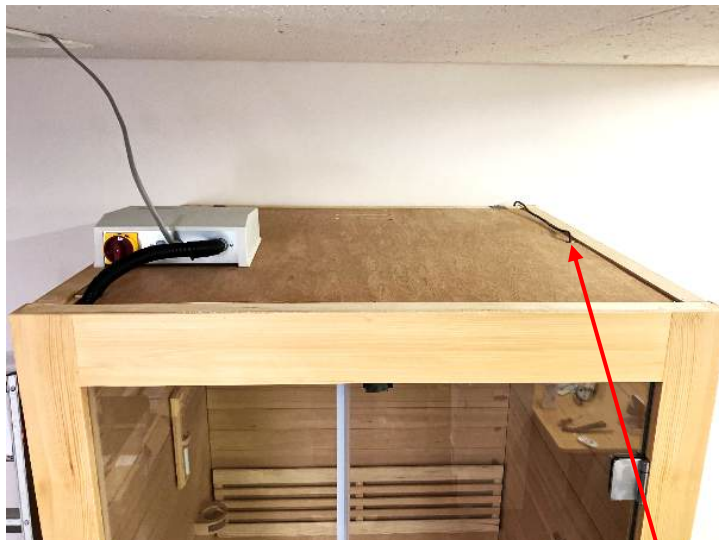


●シェードランプ/LED テープライトの配線 (100V) ①

- ・サウナルーム本体に付属されております、シェードランプ、LED テープライトは、既にコンセント接続 (100V) されております。シェードランプは、別途 E26 口径の 40~60W の白熱球が必要となります。
- ・サウナルームの天井に付いているスイッチで ON/OFF となります。
※電球が同梱されておりますが、200V 用の電球の為、使用できません。
※サウナルームの施工要領にある、断熱材で天井を埋めてください。

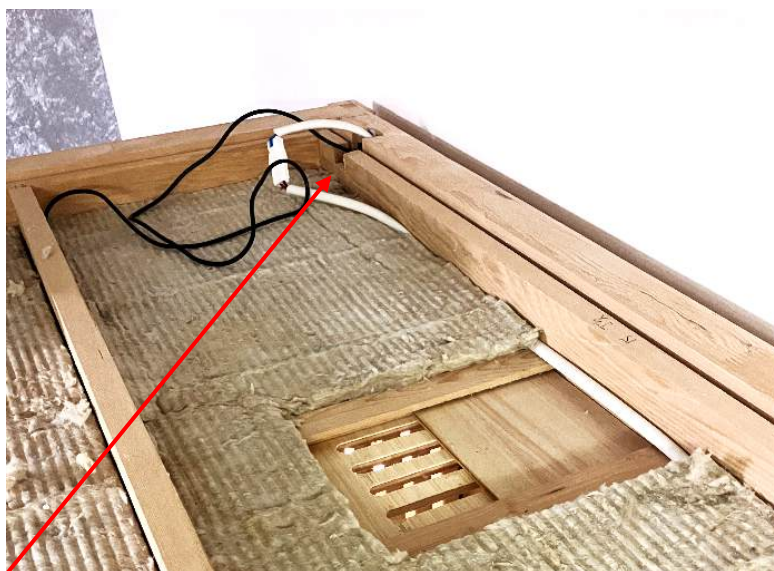


※サウナルームの天井部分 (合板施工前)



※サウナルームの天井 (合板・AC ボックス施工後)

- ・100V のコンセント配線は 2M 程度の長さとなっております。合板部分にコンセント用の欠き込みがありますので、そこから線を出し、コンセントに挿してください。



- ・温度センサーは天井のシェードランプの配線の穴を通してシェードランプに固定してください。
※天井の合板を留めた後、この穴も断熱パテで埋めてください。
※温度センサーは非常に重要です。温度センサーによってコントローラーでの設定温度より高くなった場合は自動でヒーターが停止します。必ず天井に近い位置で固定してください。

●シェードランプ/LED テープライトの配線 (100V) ②



- ・背面にはLED テープ照明が付いています。このLED 照明は専用のコントローラーで ON/OFF、LED の色を変えたり、照度を調整することも可能です。

●コントローラー (AT86) の操作手順



※詳しくはコントローラー取扱説明書をご確認ください。

●電源 ON/OFF

- ・コントローラーで「ON」にすると、画面にはサウナルームの室温（温度センサーでの室温）が表示されます。
※ライトのスイッチも付いていますが、使用しません。

●温度/時間設定

- ・「SET」を押すと、ヒーターの稼働時間設定ができます。↑up ↓down を押して稼働時間を設定してください。稼働時間は 10 分～設定可能です。
- ・「SET」をもう一度押すと、画面の温度が点滅し、ヒーターの温度を設定することができます。↑up ↓down を押して、設定温度を調整してください。設定温度は 50℃～110℃まで設定可能です。
※サウナルームの温度は 60～105℃くらいとなります。

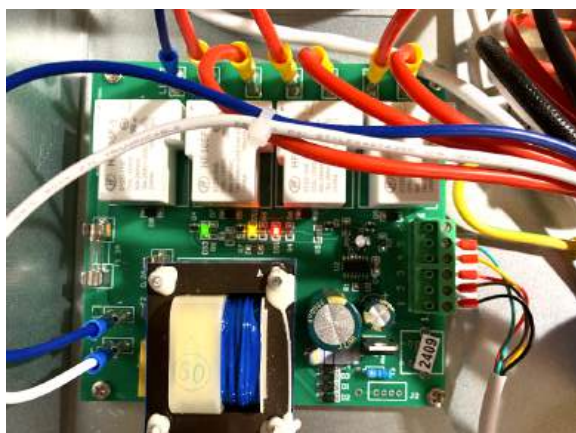
※注意!! 110℃設定の場合、室内温度は 100℃を超えかなり熱くなりますので、推奨の設定上限温度は 90～100℃です。

- ・もう一度「SET」を押すと、設定温度/稼働時間の設定が完了です。※無操作状態で 15 秒後には自動終了します。

●室温が設定温度より高い場合

コントローラーの「赤ランプ」が点灯し、ヒーターの加熱を停止します。

●通電の確認



- ・サウナヒーター／コントローラー／照明が通電して ON の時に、AC ボックス（制御盤）内の基盤のライトがそれぞれ付きます。
※これで通電を確認できます。

●サウナストーン

- ・サウナストーンが設置されていないヒーターは使用しないでください。火災の原因となる可能性があります。
又、専用のサウナストーンしか使用できません。普通の石は有害物質の放出、破砕しやすい、加熱能力が優れていないため、普通の石を使用しないでください。
- ・ヒーターにストーンを入れる前に、キレイに洗ってください。そのまま入るとロウリュウの際に石に付着している汚い水が流れ出てサウナヒーターの破損の原因となります。
※大きさが約 3cm 以下のストーンは使用しないでください（空気の循環を阻害するため）
※大きな石をストーブの仕切りの底に置き、小さなストーンを頂部に置き、きつく積み上げないようにして空気が自由に流れるようにしてください。

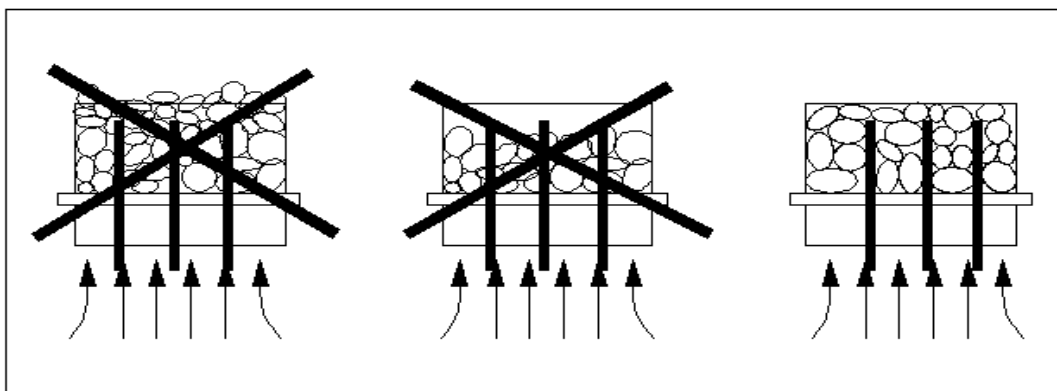


図 2

- ・サウナストーンの主な目的は、サウナルームの正常な湿度を維持するために、石の上部の水分を効率的に蒸発させるために十分なエネルギーを貯蔵することです。年に 1 回、もしくは 500 時間稼働後、ヒータの上のすべての石を除去し、新しい石に交換する必要があります。必要な石の数も表 1 に記載されています。

● サウナヒーターの試運転（重要）

- ・ヒーターの電源を入れる前に、まずサウナルーム内をチェック（可燃物が無いことなど）してください。
- ・製造段階で付着した異物などがヒーターに付着することで、白煙や匂い（ストーンの匂い等）が発生する可能性があります。そのためサウナに十分な換気があることを確認してください。
- ・初回使用時やヒーターのエレメントを交換した際は、試運転をおこなってください。
 1. サウナヒーターを ON にして最大温度（110℃）で設定してください。
 2. サウナルームを 30 分程度暖めてください。（この間、サウナルーム内から出てください）
又、サウナルーム内は十分に換気してください。暖めた後、ヒーターを切って（OFF）ください。
 3. もう一度、サウナヒーターを運転した際に、白煙や匂いが発生しなければ、その後、サウナを使用できます。
白煙や匂いが再発生する場合は 1～3 を繰り返してください。
- ・ヒーターの出力が正常であれば、適切な温度に達するまでに 30 分～1 時間程度かかります。

サウナルームの室内温度は 60～105℃くらいです。ヒーターが強すぎると加熱が早すぎて、石が熱を吸収するのに十分な時間がないかもしれません。そのため石にかかったロウリュウの水がそのまま流れ出てしまいます。

※注意!! 110℃設定の場合、室内温度は 100℃を超えかなり熱くなりますので、推奨の設定上限温度は 90～100℃です。

● ロウリュウのやり方

- ・ロウリュウには清水（その成分は塩素化水）以外は使用しないでください。ヒーター破損の原因となります。
 - ・サウナヒーター本体には水をかけないでください。ストーンに水をかけてください。水量は一度にスプーン 1～2 杯で十分です。
- ※水を掛けすぎると、ヒーターが破損（エレメントが損傷）してまいります。

※施工キットに水受けが付属されておりますので、水受けプレートを設置してください。



● サウナルームの換気について

- ・サウナルームには換気が必要です。TILAA のサウナルームには換気の給気口と排気口が付いています。
ヒータの下部に給気口があり、背面の天井に排気口があります。

● ガラスドアの召合せの戸当りについて



※召合せの戸当りが外れる可能性がありますので施工キットに耐熱両面テープを用意しています。両面テープをガラスドアの小口に貼って対処願います。

●故障かな？と思ったら

Q1：ヒーターが暖まらない場合／暖まりに時間がかかる場合は？

A1：設定温度が低くなっていませんか？

→施工業者にお問い合わせください。

A2：メインスイッチ（赤いスイッチ）はONになっていますか？

→ACボックス（制御盤）のメインスイッチ（赤いスイッチ）をONにしてください。

A3：サウナルームの空気は十分に循環していますか？

→空気の循環を妨げている障害物を取り除いてください。

A4：サウナストーンは適切に積まれていますか？（空気の循環を妨げている場合があります）

→軍手を履いて、サウナストーンの積み直しをしてください。

A5：サウナヒーターの経年劣化、ロウリュウによる水の影響でエレメントが寿命になります。

→設置業者にお問い合わせください。エレメントを交換します。

Q2：コントローラーの動作は正常で、サウナヒーターが可動しない場合は？

A1：サウナヒーターに電気が供給されていない可能性があります。

→施工業者にお問い合わせください。

A2：コントローラーからのセンサーがACボックスに正しく接続されていない可能性があります。

→施工業者にお問い合わせください。

Q3：サウナヒーターから異音になる場合は？

A1：サウナヒーターの経年的な使用により、サウナストーンが割れる場合があります。

→サウナストーンが割れる場合は、サウナストーンを交換してください。又、サウナストーンが割れていない場合、継続的に異音が続く場合、施工業者にお問い合わせください。

Q4：コントローラーは動くが、サウナヒーターが温まらない場合は？

A1：なんらかのサウナ室内の異常過熱を検知して、本体の安全装置が働いたのが原因の事が多いです。

安全装置で、ヒーターへの電源を遮断します。（電気式は機器の過熱を自動遮断する装置が備わっています）

この場合、リセットボタンがヒーター本体下部に赤いボタンがありますので、下記手順後にリセットしてください。



1. ヒーターの主電源（ACボックス）、ブレーカーを切ってください。
2. ヒーター本体を冷まして、ヒーターやサウナストーンを完全に冷ましてください。
3. ヒーター本体のサウナストーンを取り除き、ヒーターを壁掛けブラケットから外して、下部の赤いリセットボタンを押してください。その後、ヒーターを壁掛けブラケットに戻し、電源を入れてヒーターが正常に稼働するか確認してください。何度も安全装置が働くと、換気不良やサウナストーンが積み過ぎやエレメント故障が考えられます。

※故障かな?と思った場合、お客様ご自身でのサウナヒーターの修理は、発火・漏電などの原因となり
大変危険ですので、絶対にご自身での修理は行わないでください

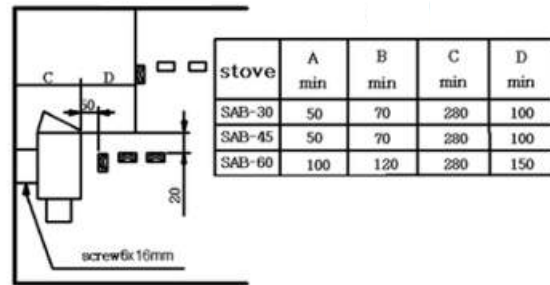
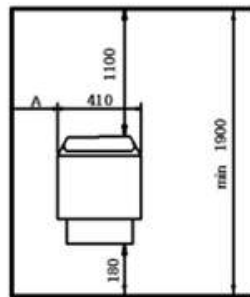
●サウナルームの火災予防・対策について

サウナでは火災のリスクを認識し、予防・対策することが大切となります。

・サウナで火災が発生する主な原因

①サウナヒーターの隔離距離

木材は通常 400℃程度で発火しますが、高温の熱源に晒し続けられ「炭化」した状態になると、約 100℃で発火してしまいます。消防基準でも、可燃部（木材部）の表面温度が 100℃を超えないように規定がされていますが、本体温度が数百度にも達するサウナストーブの周辺は、熱源と可燃物の離隔距離を確保することで、火災を予防する必要があります（なお、室温と可燃部の表面温度は異なるものです）。



↑ヒーター上部が炭化した状態

↑ヒーターと周辺の最低離隔距離について

ティラアでのサウナヒーターと各壁の離隔距離は

- ・ガラス面～ヒーター本体 : 約 80mm
- ・座面（ベンチ）～ヒーター本体 : 約 70mm
- ・背面壁～ヒーター本体 : 約 35mm

②サウナヒーターの上部に設置するカバーについて



↑ヒーターに設置されるカバーは必ず、壁側に設置してください。壁面に直接熱が当たるのを防ぐためです。

③ サウナヒーター背面部分への不燃材仕様

離隔距離を参照の上、必要に応じてストーブ背面への不燃材料（ケイカル板等）を設置することを推奨しております。
ケイカル板は EC でもご購入いただけます。



④ タオルなどの可燃物がストーブ上に放置されることによる火災

サウナストーブの温度は数百度に達するため、サウナストーブの上にタオルなどの可燃物を放置すると、発火して火事になります。

サウナ室内で乾燥させていたタオルや洗濯物が電気ストーブの上に落ちてきてしまい、そのことが原因で火事が発生するといった事例があります。

万が一可燃物がストーブ上に置かれてしまった場合、防火手袋などを着用して火傷に注意した上で直に取り除いてください。
サウナ室内に防火手袋を保管しておくことで素早い対応ができます。

④ 新聞や雑誌をサウナ室内に持ち込み、放置されることによる火災

サウナ室内に新聞や雑誌、本などを持ち込むことは一般的に禁止されています（サウナ施設の場合）

新聞や雑誌がサウナ室内で放置されてしまうと、高温になって発火し、火事になってしまう恐れがあります。

③ 温度センサーの位置の確認

サウナヒーターは、温度によって出力を変化させることにより室内温度を一定に保っています。

温度センサーを規定の位置以外に設置してしまうと、温度が低い状態であることを誤認識してしまい、過度に出力を上げ続けてしまうリスクがあります。

規定の位置（通常ストーブから距離を取った天井付近）に温度センサーが取り付けられているかをご確認ください。



輸入元

株式会社ヤマチコーポレーション 建材事業部

札幌本社：〒060-0001 札幌市中央区北1条西10丁目1-17 北一条山地ビルディング 3F

東京支店：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目5-7 YOUビル 8F